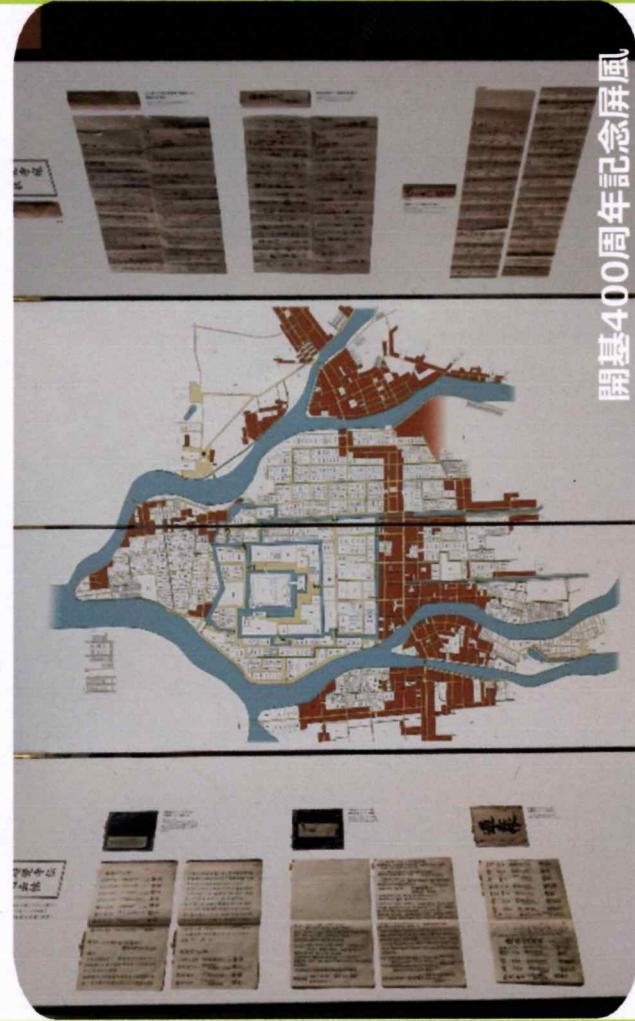


◎「NPO法人 食べて語ろう会」スタッフ募集中！！！！！  
「基町のばつちやん」と中本忠子さんが、事業拡充のため調理スタッフを募集しています。超覚寺の御門徒も1名いらっしゃいます。週1回でも大丈夫です。非行や犯罪を起こした少年・少女の自立支援活動に興味のある方は、どうぞお問い合わせください。

# 2019年9月 超覚寺報 第38号

## 【ハナ堀だより】



- ◎ テンプルモーニング：毎月第1土曜日 7時～8時  
朝のお寺でお掃除するだけののんびりした時間を持ちませんか？
- ◎ 死別の分かちあいの集い(予約・参加費不要)：13時～15時
  - ・伴侶：毎月第1土曜日 (10/5、11/2、12/7、1/4)
  - ・自死：毎月最終土曜日 (9/28、10/26、11/30、12/28)当事者の方々と僧侶(超覚寺住職)との分かちあいの集いです。
- ◎ にこにこカフェ：毎月第1月曜日 13時30分～15時  
お茶を片手に、談話や体操・脳トレ・ゲーム・レクリエーションなど、お楽しみ色々です。タオル・500mlの空ペットボトル・参加費300円をご持参ください。このカフェは「いきいきポイント」対象となりますので、振るってご参加ください。
- ◎ ひだまり対話(予約可)：毎月第2火曜日 13時～16時  
精神対話士(メンタルケアの専門家)との相談会で1対1の面談形式です。日頃心の中に溜め込んでいるモヤモヤした気持ちを吐き出しませんか？

### ◎ 報告・連絡・“信”談

順位は確定していないので諦めていませんが、広島カープのセリーグ4連覇は…。4月にあれだけコケたのに5月には連戦連勝で首位に！ でもパワーゲームとの交流戦で借金生活に陥り、その後猛追するも息切れし、Gの独走を許すことに…。昨年までの3番打者がFA先のGの選手らに活を与え、新しい3番打者はあんな形で離脱して…。でも若手はドンドン機会を与えてられ、それに応えるように活躍も目覚ましく、将来を憂うことは全くありません。さあCSを突破し今年こそ日本一を！！！発行人：超覚寺住職 和田隆彦(押隆恩) (\* - -)人へ合掌

### 林鷲山 憶西院 超覚寺

RIN-O-ZAN OKU-ZEI-IN CHO-KAKU-JI  
〔since 14歳 2162, 西暦 1619, 元和5〕  
〒730-0013 広島県広島市中区ハテ堀 5-2  
Tel : 082-221-1234 ; 090-9999-3113  
Mail : wada@namuamidabutsu.com  
HP : <http://www.namuamidabutsu.com>  
<http://mytera.jp/tera/48chokakuji>

# 超覚寺 秋の法要 のお知らせ

## ◎ 原爆の語り部～被爆体験証言者の証言～

慈光のもと、平素は様々にお世話になっておりますこと、ありがとうございます。  
さて、下記の通り法要・法座を勤修いたしますので、  
ご参詣くださいますよう、ご案内申し上げます。<(\_ \_)>

10月6日（日）14時～16時  
広島出身のシンガーソングライターHIPPYさんが主宰している会で、  
毎月6日に広島市中区薬研堀のバーで開催されています。平素は夜ですが、  
6日が日曜日になる場合は、昼間に超覚寺で開催されることになりました。  
原爆の実相を学ぶことは、カープを応援することと同じくらい大切なことです。

## ◎ 超覚寺開基400周年記念法要（兼 秋季彼岸会）

9月21日（土）

- 10時～ ○ 素常然師（誠照寺派） ○ 黒田昌英師（三門徒派）  
○ 中川結幾師（高田派） ○ 府越義博師（東本願寺派）  
13時～ ○ 鈴木君代師（大谷派） ○ 泰圓證一法師（出雲路派）  
○ 英月師（佛光寺派） ○ 高橋學真師（木辺派）  
○ 福井智行師（興正派） ○ 藤堂尚夫師（山元派）  
○ 石田博文師（本願寺派）

9月22日（日）

- 10時～ ○ 仏教漫才：アサカラザル（宮武大悟師&久留島法曉師）  
○ 書道パフォーマンス：森秀一師

13時～ ○ チエロ演奏

- 秋津智承師  
○ 法話

- 瓜生崇師

浄土真宗の主な宗派全だからご講師が参集くださいます。各々のご都合  
を勘案し登壇順を決めましたが、変更する場合もあることをご了承ください。  
両日とも10時から住職が勤行し、その後法話が始まり、終了は16時  
過ぎの予定です。昼食に軽食をご用意しております。途中の出入りは全然  
構いませんから、どうぞ少しの時間でもお参りください。

※表紙の写真是、開基400周年記念に制作した屏風で、本堂に常置して  
います。戦前の広島市中心部の地図や超覚寺由来の書物を印刷して  
あります。これらも含む400年史を編纂中で、次号でお渡しする予定です。

## ◎ 2019年報恩講法要 11月9日（土）

10時～15時30分（お齋あり）

法話：小山興圓師（愛知県安城市本證寺住職）

勤行：住職・市内住職出仕

今回の講師は、住職が学んだ僧侶養成所の同期です。

今年から4年連続で親鸞聖人のご生涯をお話頂く予定です。

## ◎ 超覚寺帰敬式（ききょうじしき）+終活セミナー

今年も法名を授かる帰敬式と終活セミナーを開催しますが、下記の落  
語会と同じ日にしようと考えています。詳細は次の寺報にてご案内しますが、  
自分の法名や終活に関心を持たれた方は、どうぞお問い合わせください。

## ◎ 第2回 八丁堀落語会 11月30日（日）？12月1日（日）？

例年、秋季彼岸会は落語会を併催しておりますが、今年の法座は左記の  
ようにがっつり法話尽くしなので、別の日に我らがお馴染み広島タレント中島  
尚樹さん主催の落語会を招致いたします。他には広島ゆかりの某男性アナウ  
サーも登壇予定です。詳細は次号の「八丁堀だより」にてお知らせします。



昨年第1回の様子です。

## ☆檀家(寺請)制度

檀家制度(はもどと、江戸幕府がキリストン対策として(仏教界の利害と一緒に)  
致して)導入したものであり、信仰とは必ずしも関係ないところに発祥を持ちます。自分が信仰する神社仏閣とは別の菩提寺を、半ば強制的に割り当てられた人も少なくなかつたでしょう。また明治以降の「檀家」の相続についても、家制度によるところが大きく、「檀家 = 法事や葬儀をきちつと勤める = 熱心な仏教徒」という構図を、寺院側は楽観的に当然のものとしていました。いわゆる「檀家制度」は、法事のお布施や檀家費をお菩提寺にお供えすることで寺院を支えるシステムですが、それが無くなると護持できなくなる寺院は少なくありません。「お寺離れ」と言われて久しいですが、お寺を離れていく人の気持ちは分かります。寺業努力もしないで負担ばかり強制的に押し付けるようなお寺は嫌ですね。しかし檀家制度はもう終わりつつあると私は思っています。「実家を継ぐ、実家に戻る」という感覚が薄れている今現在、昔のような家制度が引き継がれないもののだから、家に依拠する檀家制度の崩壊は避けようがありません。もちろん、檀家制度という枠組みに安心感を持つ人が今直ちにゼロになることはないでしょう。しかし、確実にその比率は下がっていき、今後は(ほとんど)茶道や華道のようないくつかの世界になつていくのではないかでしょうか。ただ、檀家制度の崩壊は、決して信仰の否定ではなくて、法義相続・寺院護持の新しい型の模索の始まりだと私は考えています。

ちなみに超覚寺では檀家費のような年会費は請求しておりません。戦後は境内地の一部をガリソンスタンドに貸して、その契約金や賃料で本堂を再建しました。その後も賃料のおかげで檀家費が無くても護持できました。しかし數十年間も賃料に依存していたので、ガリソンスタンドが2000年に撤退してからは途端に経済的に汲々とし、私も住職を継ぐまではアルバイトをしていました。ここ数年、超覚寺で法事仏事を勤めたい方、行事(お盆・お彼岸・報恩講等)にお参りくださる方、お墓を求める方が増え、おかげさまで御門徒の皆さんのお布施だけで護持できるようになりました。もともとは「**檀家制度**」ではない超覚寺が、「**門徒制度**」になつたといふ訳です。実は皆さんは「檀家 = 親の代から子ノア

→ の代へ自動的・強制的に引き継がれるるもの」ではなく、「門徒 = 本人の意思によって主体的・選択的になるもの」なのです。ですから今超覚寺門徒であるからといって、それを後の世代に強制することはないですし、子ども世代がまた自分たちで考へえてくださいません。だから、今後のこと(は)心配せずに、自分の世代と御先祖のことだけ考へてくださいました。そして、いよいよ親の世代が亡くなつた際に、お葬式の喪主を務めた子ども世代に、「あなたたちのお父さんやお母さんは、御門徒として超覚寺のことを大切にしてくださいました。でも、あなた方が義務的に門徒にならなければなりません。ご自身の宗教観に沿つて、お父さんやお母さんを供養してほしいと思います。でも今後も同じように超覚寺とお付き合いくださいながら、これまでと同様精一杯お手伝いさせて貢きます。」とお伝えしたいと思います。

ですから超覚寺では、門徒を継ぐ・継がないは、自分の意思で主体的に選んでいただこうと考えています。皆さんには、継ぐ権利、継がない権利、どちらもあります。義務ではありません。あなた自身のお気持ちで、自由に選んでもらつて良いんです。

ただ一つ、私自身の経験や御門徒のお話を聴いて思つたことですが、その時にはしつかりと意味や価値が分からなくなても、後にになってだんだんとその大切さが分かってくることがあります。それこそ親のお葬式の喪主を務めない限り分からぬいのかも知れません。皆さんのお父さんやお母さんも、若い頃(ぱは)忙いしょ寺にそんなに来ることもなかつたでしょうけれど、晩年は喜んで熱心にお参りされました。私自身も、今はこうして住職をさせていただいているのですが、若い頃には分からなかつたことが、この歳になつてやつと分かってきたようなことが、たくさんあります。人生には山あり谷あり、いろんなタイミングがあり、いろんな状況があります。人生には山あり谷あり、超覚寺としては、皆さんが最も関わりやすい形で、ちょうど良いと思う距離感で、自由に入り出していただければと思います。皆さんのが宗教心のために寺院があるのですから、その逆ではありません。

ただ、私は住職として、仏教・浄土真宗が伝わる場、御門徒の皆さんの宗教心や先祖供養の想いを満たせる場として、超覚寺を護持してまいります。